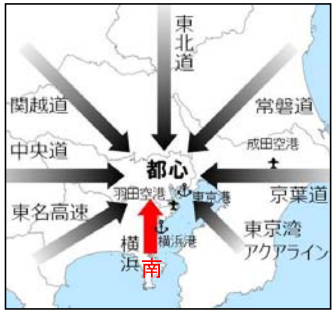
首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」　南方向の概要

1．被災の特徴



＜地域全般＞

- ○ 木造密集地域は、品川区の戸越・大森地区に分布し、大規模火災発生のおそれ。
- ○ 軟弱な地盤が、多摩川下流部、東京湾沿いの羽田、平和島、芝浦、新橋にかけて分布し、液状化のおそれ。

＜道路（直轄国道１号・１５号）＞

- ○ 道路上に車両は、最大で約1，900台滞留すると想定。
- ○ 道路上への家屋の倒壊、電柱の倒れ込みに等よるガレキの発生は、320㎥（10tダンプ80台分）程度発生すると想定。
- ○ 橋梁取り付け部の段差は、多摩川渡河橋梁（多摩川大橋・六郷橋）の橋台背面部において複数箇所発生すると想定。

2．啓開ルート案

- ○ 首都高横羽線、首都高湾岸線、国道15号、国道1号を組合せて、発災後48時間以内に最低1ルート確保を目標。

- ○ 被災規模を想定し、資機材の備蓄を進めるとともに、啓開部隊の集結拠点として多摩川大橋橋詰及び六郷橋南をあらかじめ設定。
- ○ 発災後、3～6時間を目標に、作業員147名、ダンプトラック37台、ユニック5台、バックホウ6台により啓開部隊を編制予定。

- ○ 被災の特徴を踏まえ、3ケースを想定。

【ケース1】 高速道路（首都高横羽線）を優先

集結拠点→国道409号→1号横羽線→1号羽田線→都心

・木造密集地域で大規模な火災が発生。

→火災を避けるため、海沿いのルートを選定。

【ケース2】 直轄国道（国道1号）を優先

集結拠点→国道15号→環八→国道1号→都心

・東京湾沿いの地域で、液状化被害が広域発生。

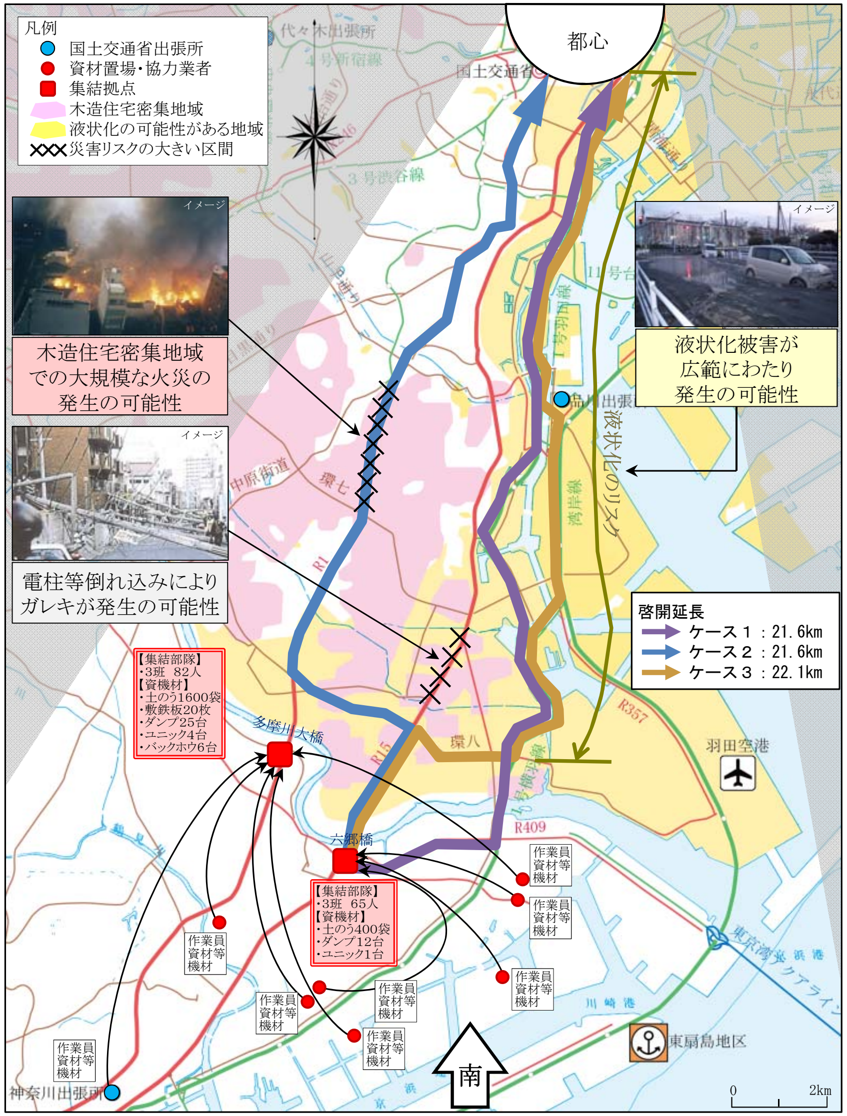
→液状化被害地域を避け、内陸部のルートを選定。

【ケース3】 高速道路と直轄国道を組合せて啓開

集結拠点→国道15号→環八→1号羽田線→湾岸線→都道→1号羽田線→都心

・木造密集地域の火災と液状化が同時に発生。

→首都高速、直轄国道の被災箇所を避け、あみだ状にルートを選定。



※ 啓開部隊の人員・資機材は直轄国道事務所のもの。

3．事前の備え

- ○ 関係機関、協力業者等と訓練を実施し、計画をスパイラルアップ。
- ○ 発災時におけるドライバーへの協力依頼等の広報を道の駅、SAなどを活用し実施。

首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」　南西方向の概要

1. 被災の特徴

＜地域全般＞

○ 木造住宅密集地域は、世田谷区に広く分布し、大規模火災発生のおそれ。

＜道路（直轄国道246号）＞

○ 道路上に車両は、最大で約3，200台滞留すると想定。

○ 道路上への家屋の倒壊、電柱の倒れ込み等によるガレキの発生は、120㎥（10tダンプ30台分）程度発生すると想定。

○ 橋梁取り付け部の段差は、多摩川渡河橋梁（新二子橋）の橋台背面部において複数箇所発生すると想定。

2. 啓開ルート案

○ 東名高速、第三京浜、首都高3号渋谷線、国道246号を組合せて、発災後48時間以内に最低1ルート確保を目標。

○ 被災規模を想定し、資機材の備蓄を進めるとともに、啓開部隊の集結拠点として川崎国道事務所をあらかじめ設定。

○ 発災後、3～6時間を目標に、作業員56名、ダンプトラック25台、ユニック4台、バックホウ8台により啓開部隊を編制予定。

○ 被災の特徴を踏まえ、3ケースを想定。

【ケース1】 高速道路（首都高3号渋谷線）を優先

集結拠点→国道246号→環八→3号渋谷線→都心

・高速道路の損傷は軽微で、路上車両は比較的少数。

→道路施設の被災状況によって、高架橋の首都高ルートを選定。

【ケース2】 直轄国道（国道246号）を優先

集結拠点→ 国道246 号→都心

・高速道路の損傷箇所が多く、一般道路の損傷は比較的軽微。

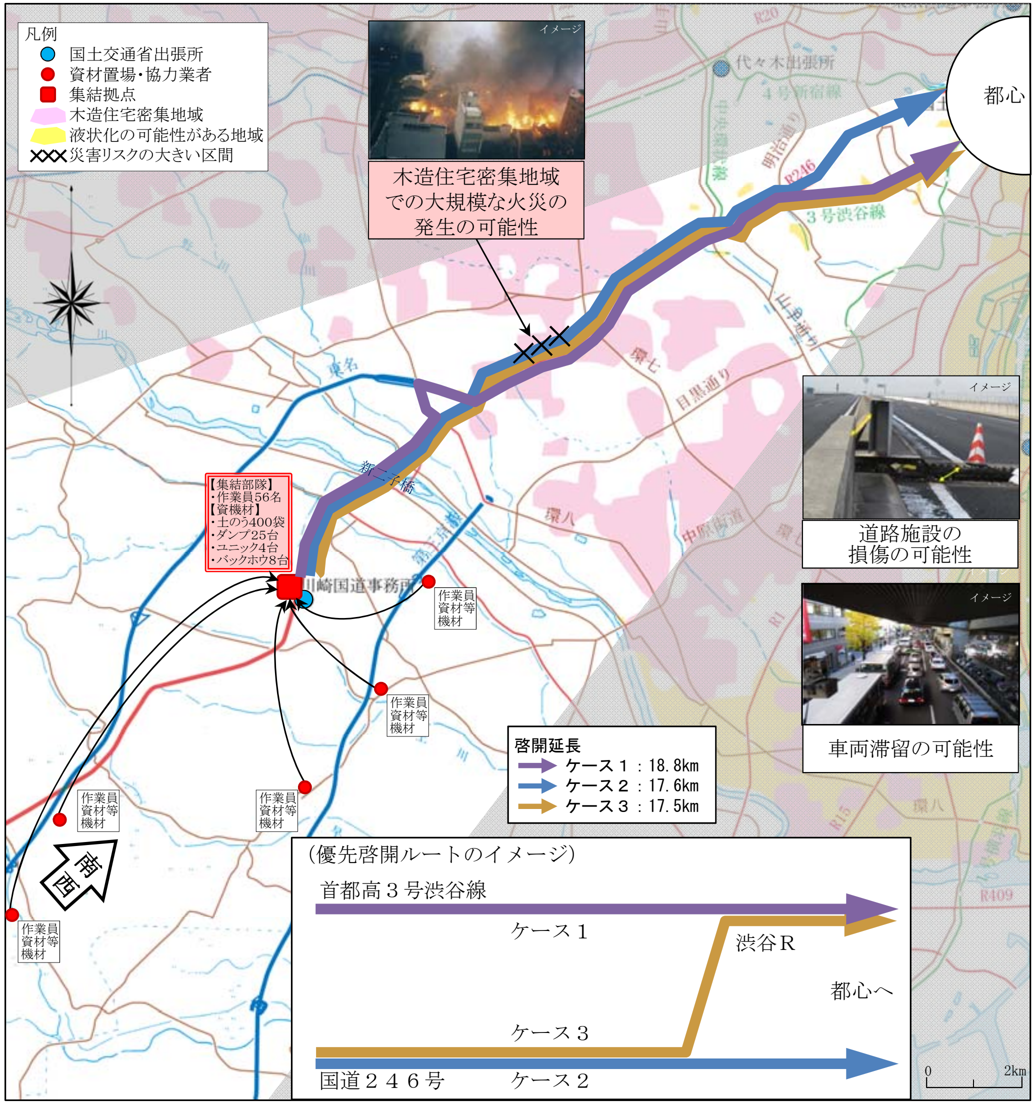
→道路施設の被災状況によって、国道ルートを選定。

【ケース3】 高速道路と直轄国道を組合せて啓開

集結拠点→国道246号→3号渋谷線→都心

・高速道路も一般道路も一定の損傷。

→損傷箇所を回避し、あみだ状にルートを選定。



※ 啓開部隊の人員・資機材は直轄国道事務所のもの。

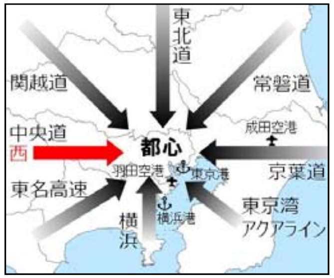
3. 事前の備え

○ 関係機関、協力業者等と訓練を実施し、計画をスパイラルアップ。

○ 発災時におけるドライバーへの協力依頼等の広報を道の駅、SAなどを活用し実施。

首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」　西方向の概要

1. 被災の特徴



＜地域全般＞
- ○ 木造住宅密集地域は、世田谷区に広く分布し、大規模火災発生のおそれ。

＜道路（直轄国道20号）＞
- ○ 道路上に車両は、最大で約3，300台滞留すると想定。
- ○ 道路上への家屋の倒壊、電柱の倒れ込み等によるガレキの発生は、150㎥（10tダンプ40台分）程度発生すると想定。
- ○ 橋梁取り付け部の段差は、現地状況等により松泉橋において複数箇所発生すると想定。

2. 啓開ルート案

○ 中央道、首都高4号新宿線、国道20号を組合せて、発災後48時間以内に最低1ルート確保を目標。

○ 被災規模を想定し、資機材の備蓄を進めるとともに、啓開部隊の集結拠点として下高井戸資材置場をあらかじめ設定。

○発災後、3～6時間を目標に、作業員149名、ダンプトラック13台、ユニック2台、バックホウ15台により啓開部隊を編制予定。

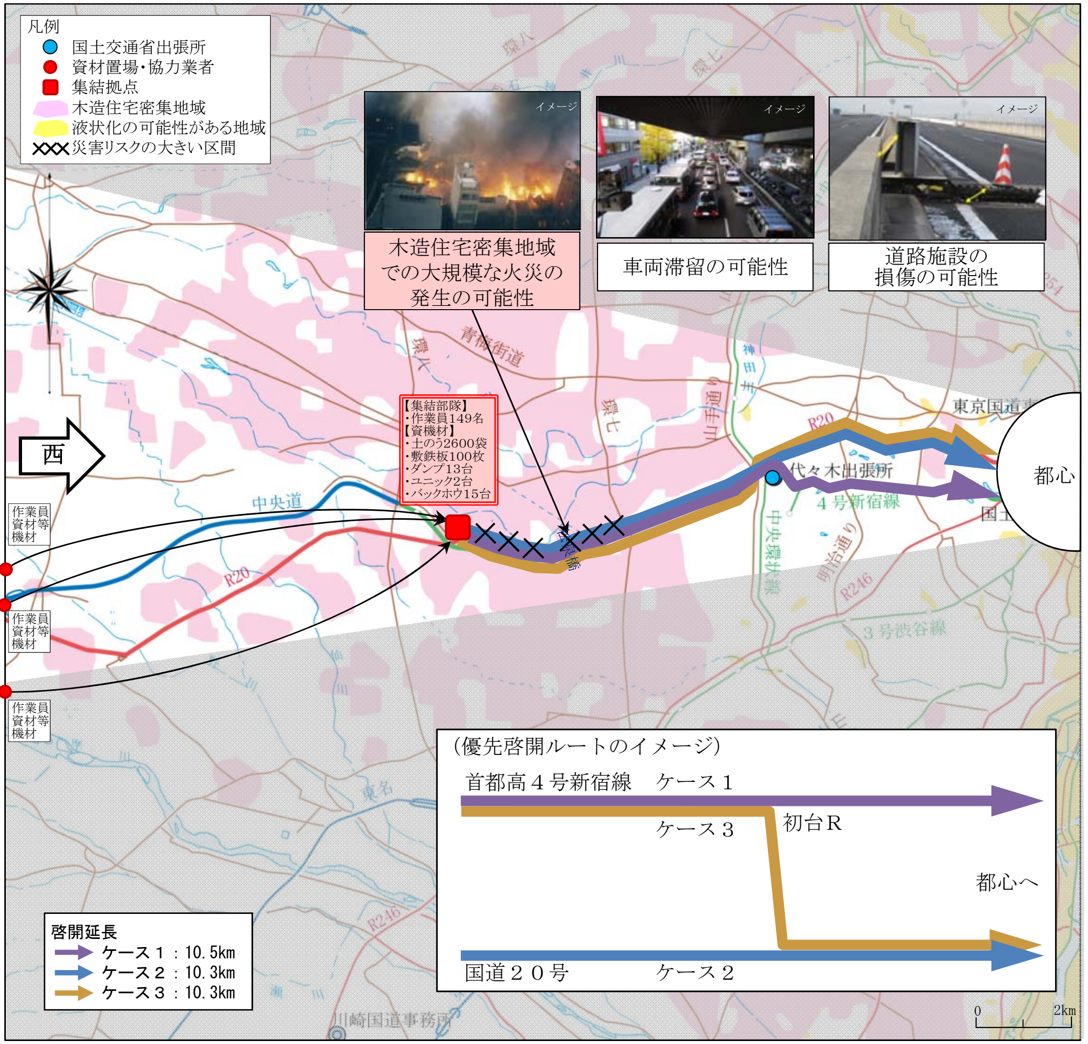
○ 被災の特徴を踏まえ、3ケースを想定。

【ケース1】 高速道路（首都高4号新宿線）を優先
集結拠点→国道20号→4号新宿線→都心
・高速道路の損傷は軽微で、路上車両は比較的少数。
→道路施設の被災状況によって、高架橋の首都高ルートを選定。

【ケース2】 直轄国道（国道20号）を優先
集結拠点→国道20号 →都心
・高速道路の損傷箇所が多く、一般道路の損傷は比較的軽微。
→道路施設の被災状況によって、国道ルートを選定。

【ケース3】 高速道路と直轄国道を組合せて啓開
集結拠点→国道20号→4号新宿線→国道20号→都心
・高速道路も一般道路も一定の損傷。
→損傷箇所を回避し、あみだ状にルートを選定。

※木造住宅密集地域を通過するため、火災の状況によってはどのルートも啓開できない可能性あり。



※ 啓開部隊の人員・資機材は直轄国道事務所のもの。

3. 事前の備え

- ○ 関係機関、協力業者等と訓練を実施し、計画をスパイラルアップ。
- ○ 発災時におけるドライバーへの協力依頼等の広報を道の駅、SAなどを活用し実施。

首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」　北西方向の概要

1. 被災の特徴

＜地域全般＞
- ○ 木造住宅密集地域は、板橋区・北区・豊島区に分布し、大規模火災発生のおそれ。
- ○ 軟弱な地盤が、荒川沿いの板橋区・北区に分布し、液状化のおそれ。

＜道路（直轄国道17号・254号）＞
- ○ 道路上に車両は、最大で約5，300台滞留すると想定。
- ○ 道路上への家屋の倒壊、電柱の倒れ込み等によるガレキの発生は、310m³（10tダンプ80台分）程度発生すると想定。
- ○ 橋梁取り付け部の段差は、荒川渡河橋梁（戸田橋・笹目橋）の橋台背面部において複数箇所発生すると想定。

2. 啓開ルート案

○ 関越道、首都高5号池袋線、国道17号、国道254号を組合せて、発災後48時間以内に最低1ルート確保を目標。

○ 被災規模を想定し、資機材の備蓄を進めるとともに、啓開部隊の集結拠点として戸田バスターミナル（調整中）をあらかじめ設定。

○ 発災後、3～6時間を目標に、作業員51名、ダンプトラック15台、ユニック3台、バックホウ17台により啓開部隊を編制予定。

○ 被災の特徴を踏まえ、3ケースを想定。

【ケース1】 高速道路（首都高5号池袋線）を優先

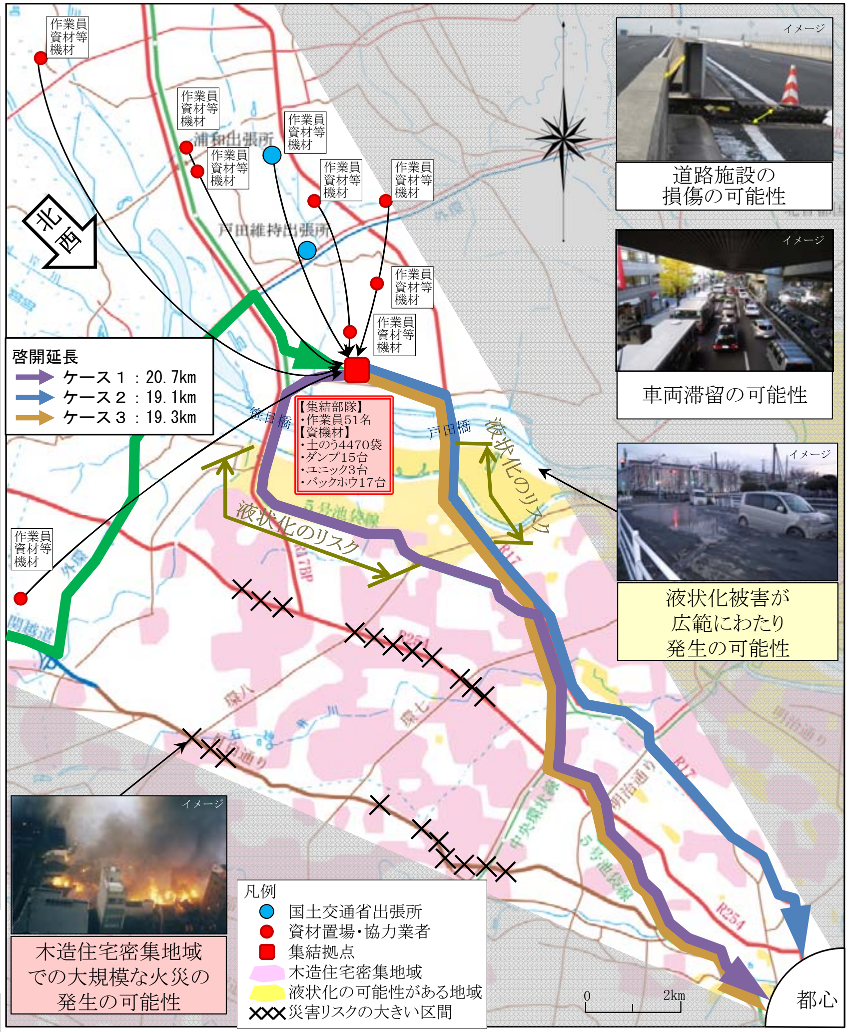
集結拠点→県道→5号池袋線→都心
・高速道路の損傷は軽微で、路上車両は比較的少数。
→木造住宅密集地域の火災を避け、液状化の影響が比較的少ない、高架橋の首都高ルートを選定。

【ケース2】 直轄国道（国道17号）を優先

集結拠点→県道→国道17号→5号池袋線→国道17号→都心
・高速道路の損傷箇所が多く、一般道路の損傷は比較的軽微。
→道路施設の被災状況によって、国道ルートを選定。

【ケース3】 高速道路と直轄国道を組合せて啓開

集結拠点→県道→国道17号→5号池袋線→国道254号→5号池袋線→都心
・高速道路も一般道路も一定の損傷。
→損傷箇所を回避し、あみだ状にルートを選定。



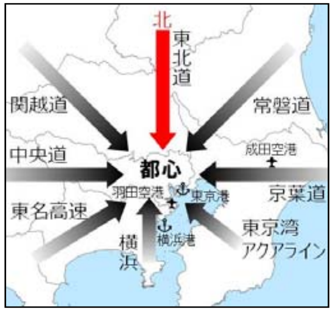
※ 啓開部隊の人員・資機材は直轄国道事務所のもの。

3. 事前の備え

- ○ 関係機関、協力業者等と訓練を実施し、計画をスパイラルアップ。
- ○ 発災時におけるドライバーへの協力依頼等の広報を道の駅、SAなどを活用し実施。

首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」　北方向の概要

1. 被災の特徴



＜地域全般＞

- ○ 木造住宅密集地域は、足立区・墨田区に分布し、大規模火災発生のおそれ。
- ○ 軟弱な地盤が、荒川沿いの足立区・墨田区に分布し、液状化のおそれ。

＜道路（直轄国道4号・122号）＞

- ○ 道路上に車両は、最大で約4，400台滞留すると想定。
- ○ 道路上への家屋の倒壊、電柱の倒れ込み等によるガレキの発生は、130㎥（10tダンプ30台分）程度発生すると想定。
- ○ 橋梁取り付け部の段差は、隅田川渡河橋梁の千住大橋、荒川渡河橋梁の千住新橋、毛長川渡河橋梁の草加高架橋の橋台背面部において、複数箇所発生すると想定。

2. 啓開ルート案

- ○ 首都高川口線、国道4号等を組合せて、発災後48時間以内に最低1ルート確保を目標。

- ○ 被災規模を想定し、資機材の備蓄を進めるとともに、啓開部隊の集結拠点として、新善町交差点付近をあらかじめ設定。
- ○ 発災後、3～6時間を目標に、作業員92名、ダンプトラック6台、バックホウ1台により啓開部隊を編制予定。

- ○ 被災の特徴を踏まえ、3ケースを想定。

【ケース1】 高速道路（首都高川口線）を優先

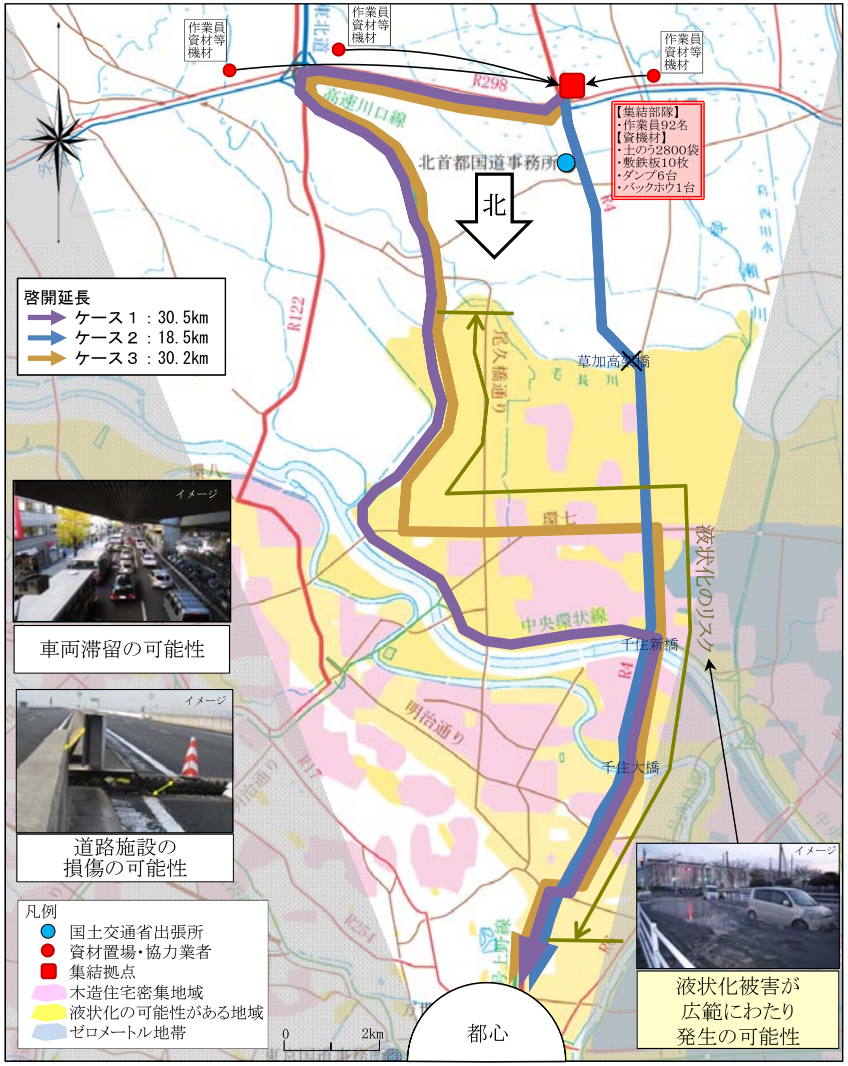
集結拠点→外環→高速川口線→国道4号→1号上野線→都心
・高速道路の損傷は軽微で、路上車両は比較的少数。
→液状化の影響が比較的少ない、高架橋の首都高ルートを選定。

【ケース2】 直轄国道（国道4号）を優先

集結拠点→国道298号→国道4号→都心
・高速道路の損傷箇所が多く、一般道路の損傷は比較的軽微。
→道路施設の被災状況によって、国道ルートを選定。

【ケース3】 高速道路と直轄国道を組合せて啓開

集結拠点→外環→高速川口線→都道→環七→国道4号→1号上野線→都心
・高速道路も一般道路も一定の損傷。
→損傷箇所を回避し、あみだ状にルートを選定。



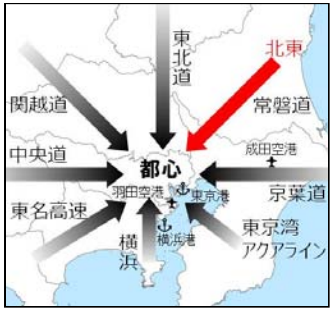
※ 啓開部隊の人員・資機材は直轄国道事務所のもの。

3. 事前の備え

- ○ 関係機関、協力業者等と訓練を実施し、計画をスパイラルアップ。
- ○ 発災時におけるドライバーへの協力依頼等の広報を道の駅、SAなどを活用し実施。

首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」　北東方向の概要

1. 被災の特徴



＜地域全般＞
- ○ 木造住宅密集地域は、葛飾区・墨田区に分布し、大規模火災発生のおそれ。
- ○ 軟弱な地盤が、荒川沿いの葛飾区・墨田区に分布し、液状化のおそれ。
- ○ ゼロメートル地帯が、荒川沿いの葛飾区・墨田区に分布し、浸水のおそれ。

＜道路（直轄国道6号）＞
- ○ 道路上に車両は、最大で約3，500台滞留すると想定。
- ○ 道路上への家屋の倒壊、電柱の倒れ込み等によるガレキの発生は、130㎥（10tダンプ30台分）程度発生すると想定。
- ○ 橋梁取り付け部の段差は、中川渡河橋梁（中川大橋）、隅田川渡河橋梁（言問橋）、荒川渡河橋梁（四ツ木橋・新四ツ木橋）の橋台背面部において複数箇所発生すると想定。

2. 啓開ルート案

- ○ 常磐道、首都高6号線、国道6号を組合せて発災後48時間以内に最低1ルート確保を目標。

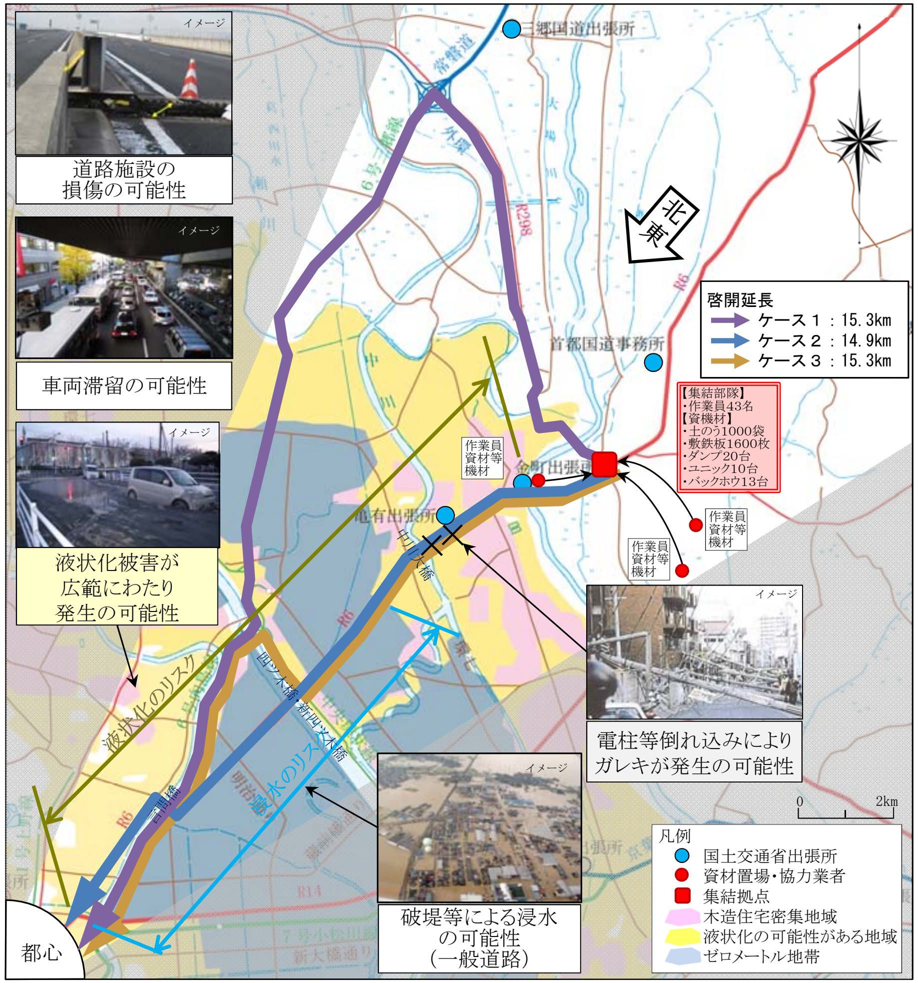
- ○ 被災規模を想定し、資機材の備蓄を進めるとともに、啓開部隊の集結拠点として外かん矢切入口交差点付近をあらかじめ設定。
- ○ 発災後、3～6時間を目標に、作業員43名、ダンプトラック20台、ユニック10台、バックホウ13台により啓開部隊を編制予定。

- ○ 被災の特徴を踏まえ、3ケースを想定。

【ケース1】 高速道路（首都高6号線）を優先
集結拠点→国道298号→外環→6号三郷線→6号向島線→都心
・浸水被害が広域に発生、高速道路の損傷は軽微。
→液状化と浸水等の影響が少ない、高架橋の首都高ルートを選定。

【ケース2】 直轄国道（国道6号）を優先
集結拠点→国道6号→都心
・高速道路の損傷箇所が多く、一般道路の液状化と浸水等による被災は軽微。
→道路施設の被災状況によって、国道ルートを選定。

【ケース3】 高速道路と直轄国道を組合せて啓開
集結拠点→国道6号→中央環状線→6号向島線→都心
・高速道路も一般道路も一定の損傷。
→損傷箇所を回避し、あみだ状にルートを選定。



※ 啓開部隊の人員・資機材は直轄国道事務所のもの。

3. 事前の備え

- ○ 関係機関、協力業者等と訓練を実施し、計画をスパイラルアップ。
- ○ 発災時におけるドライバーへの協力依頼等の広報を道の駅、SAなどを活用し実施。

首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」　東方向の概要

1．被災の特徴

＜地域全般＞

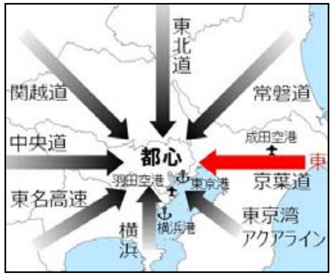
○ 軟弱な地盤が、東京湾沿いの江東区に分布し、液状化のおそれ。

＜道路（直轄国道357号）＞

○ 道路上に車両は、最大で約600台滞留すると想定。

○ 道路上への家屋の倒壊、電柱の倒れ込み等によるガレキの発生は、170㎥（10tダンプ40台分）程度発生すると想定。

○ 橋梁取り付け部の段差は、荒川渡河橋梁（荒川河口橋）の橋台背面部において複数箇所発生すると想定。



2．啓開ルート案

○ 東関東道、首都高湾岸線、国道357号を組合せて、発災後48時間以内に最低1ルート確保を目標。

○ 被災規模を想定し、資機材の備蓄を進めるとともに、啓開部隊の集結拠点として船橋防災センターをあらかじめ設定。

○ 発災後、3～6時間を目標に、作業員89名、ダンプトラック6台、ユニック2台、バックホウ6台により啓開部隊を編制予定。

○ 被災の特徴を踏まえ、3ケースを想定。

【ケース1】高速道路（首都高湾岸線）を優先

集結拠点→国道357号→湾岸線→9号深川線→都心

・高速道路の損傷は軽微で、路上車両は比較的少数。

→道路施設の被災状況によって、高架橋の首都高ルートを選定。

【ケース2】直轄国道（国道357号）を優先

集結拠点→国道357号→都道→都心

・高速道路の損傷箇所が多く、一般道路の損傷は比較的軽微。

→道路施設の被災状況によって、国道ルートを選定。

【ケース3】高速道路と直轄国道を組合せて啓開

集結拠点→国道357号→湾岸線→11号台場線→1号羽田線→都心

・高速道路も一般道路も一定の損傷。

→損傷箇所を回避し、あみだ状にルートを選定。

※ 啓開部隊の人員・資機材は直轄国道事務所のもの。

3．事前の備え

○ 関係機関、協力業者等と訓練を実施し、計画をスパイラルアップ。

○ 発災時におけるドライバーへの協力依頼等の広報を道の駅、SAなどを活用し実施。